

学生大使 実施報告書

氏名:原 瑞希

学部・学科(コース)・学年:地域教育文化学部・児童教育コース・1年

派遣先大学:ガジャマダ大学

派遣期間:2月26日～3月12日

1 日本語教室での活動内容

平日の10:00～11:30、13:30～15:00。クラスに来てくれる学生数は日によって異なる。日本人が16人と多かったため2対2でグループを組む日もあった。

ひらがなカタカナ・漢字・コミュニケーションの3つのブースに分けて現地学生が学びたいカテゴリーを選ぶことができるようにした。ひらがなカタカナブースでは、①50音表をもとに文字を書いてみる②英語とローマ字で書かれた簡単な単語をひらがなカタカナで書いてみる(apple Ringo を りんごりんご)③短文をひらがなカタカナで書いてみる(I can run fast.わたしははやくはしることができます。)というような流れで進めた。①では文字の書き順に注意した。③では、発音が似る場合のある“わ”と“は”の使い分けも簡単に教えた。

漢字ブースでは日本の小学校で学習する漢字を中心に教えた。動物に関わる漢字にはケモノヘンがつくものが多いと、部首に興味を示す学生もいた。

コミュニケーションブースでは日本に来た時に実際使えるようなフレーズの紹介、日本語のレベルが特に高い学生とは日常会話をした。日本のアニメ漫画だけでなく、ドラマも人気があることに驚いた。

文化交流の日には、習字・折り紙・かるた・あやとり・けん玉のブースを設定した。また、椅子取り風ゲーム、ダルマさんが転んだを行った。

2 日本語教室以外での交流活動

山大生だけの行動は禁止されていたので移動には Buddy や現地学生が一緒であった。朝から夜まで道路はバイクをはじめとした自動車の交通量が非常に多い。そのため、道路を横断する際には毎回タイミングをサポートしてもらった。そんなジョグジャカルタでバイクの後ろに乗せてもらえたのはいい経験だと思う。

クラスがある日の昼食は主に学食だった。現地学生がメニューの説明をしてくれたので知らない料理にも挑戦できた。Soto Ayam が好きになった！

休日は Buddy 達がモール、ボロブドゥール遺跡、カラオケ、海、神話の劇、動物園、マリオボロ通りに連れて行ってくれた。朝から夜まで1日中外出していたのでインドネシアをたっぷり堪能できた。

モールには私の思っている以上に日本の製品が売られていて驚いた。丸亀のお店もあった。カラオケには日本の曲も多く搭載されていた。歌詞はローマ字表記だが、インドネシアの人とも日本の音楽を共有できて盛り上がり、すごく楽しい時間だった。遺跡、海、動物園は自然が多く壮大な風景が印象に残っている。日本では見られないような植物が多くあり新鮮だった。

【学生大使 実施報告書】

2週間毎日の計画を立ててくれたこと、16人という大人数に対して厚くサポートしてくれたこと、感謝の気持ちでいっぱい。Buddy、現地学生がいなければここまで価値のある時間を過ごせなかったと思う。どの場面を切り取っても忘れられない素敵な瞬間。日本では感じられない、インドネシアならではの雰囲気、空気感また体感したい。

3 参加目標への達成度と努力した内容

積極的に人と交流すること・現地でしかできないことに挑戦することを参加目標として掲げていた。一つ目の達成度は70%。集団で行動することが多かったことや風邪をひいてしまったこともあり、なかなか個人で深く交流することができなかった。もっと自分から積極的に行動していれば変わっていたのではないかと少し後悔している。回復してからは、クラスの終盤に日本のことやインドネシアのことについて話すことができた。

二つ目の達成度は90%。食べ物、交通、気候、病院など五感を通じて体験できたと思う。食べ物に関して日本では見られないサイズ、知らない味ばかりですごく新鮮であった。特にボトルで売られていたフルーツティーは飴をまるまる溶かしたのかと思うほど甘かった。交通に関しては、2週間いてもなかなか慣れることはなかった。どこに鳴らしているのかわからないほど鳴るクラクションや信号のない道路。スリル満載であった。その他、移動にはほとんどタクシーを使ったことやスコール、香水の匂い、インドネシアならではのことを体験できた。

4 プログラムに参加した感想

第一に「参加して本当に良かった」と思う。確かに日本にいても外国の文化や言語を学ぶことは可能だ。しかし、実際に行くと行かないとではまったく感じ方が違うと思った。特に国民性、町の雰囲気は現地ではないと感じにくい。食べ物、風景、言語、雰囲気、ノリ、交通、日本とは全く異なるインドネシアに溶け込んだ2週間はあっという間でかつ非常に有意義な時間であった。そして、今まで以上に多文化への興味が高まった。当たり前だと思っていることが当たり前ではない。時間に対する考え方、ごみの捨て方、生活、その他いろいろ、驚くこともあったけれど体感できて本当によかった。

最後に、一点後悔していることを挙げるとそれは途中で風邪をひいてしまったことだ。貴重な休日を寝込むことに費やしてしまいすごく残念だった。しかし、海外で病院に行き薬をもらい治療するということは簡単にできることでもないので「貴重な経験をした」と前向きに捉えたいと思う。日本から持ってきていたおかゆ、インスタント味噌汁、ゼリーのありがたみをしみじみと感じた数日だった。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

今後の展望として英語力の向上を挙げる。今回、日本語のわかる現地学生が多くいたためコミュニケーション上で困ることはほとんどなかった。しかし、複雑な話をする場面などで英語を使う際自身のボキャブラリーの少なさに対し残念に思うことがあった。加えて、やり取りの味気無さから翻訳には極力頼らず人間対人間で会話したいと思うこともあった。気持ちのこもった会話ができるようになるためにも英語学習に精進したい。また、海外に行ってその土地特有の空気感を感じたい。

6 現地での活動写真

写真1

文化交流



写真2

ボロブドゥール遺跡



写真 3

マリオボロ通り観光の帰り



写真 4

ラマヤナ

